

向野地区（第2期）地域計画書

～ つなげよう！ 向野の未来を次世代に ～



自然と人情が息づくふるさと

向野地区住民自治協議会

令和7～11年度

会 長 あ い さ つ

令和7年度向野地区住民自治協議会総会に於いて、会長の大役を仰せつかりました、阿部秀夫です。地区の皆様には、平素より自治協の活動に対しまして、ご協力ご支援をいただきまして深く感謝申し上げます。

平成29年度に地域の各年代の方々にお集まりいただき、向野未来プロジェクトを立ち上げ、策定しました、「向野地区地域計画書」も早いもので計画年度の7年を経過し、見直しの時期を迎えました。

向野地区住民自治協議会の活動方針である「向野地区地域計画書」を見直すに当たり、昨年のアンケート調査や、地域に在住する次の世代の方々（60歳以下の方を中心）にもお集まりいただき、意見集約を行いました。役員会でも、各部会の現状や今後の活動についての意見を出し合い、今後5ヶ年の計画として取りまとめました。

振り返りますと、前公民館活動の時代から伝統ある活動・行事は継続しながら、向野小店（小学校跡地の小さなお店）の開設、資源ごみ回収の取り組み、軽トラ市の定期開催、運動会に変わる軽スポーツ大会（モルック）、椎茸駒打ち体験、向野ふるさと資料館の開設、ふるさと納税返礼品（向野米）の取り組み等、新たな取り組みも7年を経過する中で確実に定着してきています。

しかしながら、前回計画作成時、向野地区の人口は350名であり、8年後の現在260名と人口減少に歯止めがかかっていません。高齢化率は60%に迫っています。移住対策にも取り組んできましたが、成果には結びついておらず、自治協活動については満足度は高い状態にありますが、役員のなり手不足や若い世代の活動参加等の課題が残されています。

次の5ヶ年計画を策定していますが、今後も役員会等で協議を続け、地域の皆様と共に、安心して暮らせる地域づくりを目指して活動していきますので、よろしくお願いします。

向野地区 住民自治協議会 会長 阿 部 秀 夫



も く じ ※編集中



1. 向野地区住民自治協議会とは	2
2. 向野地区地域計画書とは	2
3. 向野地区住民アンケートの結果と傾向	3
4. 向野地区の人口の推移	5
5. 地域計画書 見直しのポイント	5
6. 部会の取組（ふりかえり・方針）	6
7. 向野地区住民自治協議会 組織図	8

1. 向野地区住民自治協議会（自治協）とは

住民自治協議会は、地域の住民や各種団体（区長会、民生児童委員協議会、スポーツ協会、老人クラブ、学校関係等）などが集まり、地域の抱える課題を集約し行政へ情報提供や取組の提案及び独自で解決に向けて活動する組織です。杵築市内には、おおむね旧小学校区単位を区域とした13地区全域に住民自治協議会が組織されています。

その中でも、向野地区は市内でも最も早くから住民主体の地域運営が行われてきました。昭和54年に「向野生活改善センター」を開設、住民活動の拠点となる場所が誕生しました。その後、昭和58年に「向野地区公民館」と改称。よりよい向野を作っていくため、公民館活動を自主的に行ってきました。

向野小学校が閉校し、住民活動の拠点として、向野地区コミュニティセンターの新築が決まる過程で、平成29年度に公民館活動主体の組織から、より住民自治（集落の維持や地区住民の暮らしの支援）活動に主眼を置くべく「向野地区住民自治協議会」に改名。15歳以上の全地区住民アンケートなどを行い、地区の課題の洗い出し、各種団体との活動のすみ分けを行い、「向野地区地域計画書」を策定しました。これに伴い、当時6つあった部会を、4つの部会に整理し、事業内容も見直しました。

第1期 向野地区「地域計画書」表紙（右）



2. 向野地区「地域計画書」とは

杵築市において、地域計画書は、「なぜ、この組織で、その活動・事業を行っていく必要があるのか」について、地区住民で共有するためのものです。その地区（自治協）の今後の活動、組織の運営の指針となります。分野やテーマ（健康、防災など）ごとの活動内容や中心となって活動する役員・部会員の役割分担、重点的に取り組む活動や、今後取り組みたいことなどを決め、役員の交代などがあっても、地区住民が見て分かるようにするためのものです。

向野地区では、担い手確保の問題など「これまでどおり」とは行かないことも増えてくると予想されます。今後の活動の優先順位付けをしたり、場合によっては廃止したり、新たに取り組んだり…そうした向野地区の今後を見つめ直す機会としてこの「地域計画書」を検討しました。

また、長く地域に住んでいる人や、話し合いに参加した人であれば、組織の活動に対する理解は深いと思います。一方で、移住者や、役員の交代などもあり、年に1回の総会や、一部の人が参加する役員会などで引き継いでいくことは難しいのが現状です。長期的に向野地区での活動を維持するため、多くの人が見て、活動方針が分かるようにしました。

このような目的をもった「地域計画書」について、全地区住民が理解・納得…するのは理想ですが、なかなか難しいことと思います。だからといって、「反対意見はきかない」ようでは本末転倒です。

今の段階で答えは出せないけれど、将来に向けて「議論を続けていく内容」もきちんと盛り込みながら、当面の組織の運営方針として、地区で一定の合意をいただき、内容をまとめています。

自治協の活動計画や協議すべき内容・論点、なおかつ次の世代への「引継書」。そのような願いを込めて、「第2期 向野地区 地域計画書」を取りまとめました。

3. 向野地区住民アンケートの結果と傾向①

令和6年9月から区長便などを通じて、お住いの皆さまに向野地区住民自治協議会のこれまでの活動について、アンケート調査のご協力をいただきました。主な項目を抜粋して紹介します。また、回答傾向の分析を杵築市や大分県から「地域づくり団体の支援」を受託するアドバイザーにも依頼して、以下の指摘・アドバイスをもらいました。

アドバイザーコメント

一般社団法人 コミュニティサポートおおいた
特定非営利活動法人 おおいたNPOデザインセンター

良かった点

- ・他の地区と比べて、地区住民のイベント等への参加度が非常に高い
- ・自治協の認知度も高い状態（約80%）
- ・自治協の事業に対して、全般的に評価が高い
- ・地域住民に、「楽しみ」「憩いの場」を十分提供できている
- ・年配の方向けのイベントや活動の評価が高い
- ・極端にニーズが低い活動もなく、今後、現状維持で活動が続けた場合でも、地区住民の評価は高い状態をキープできるのではないか

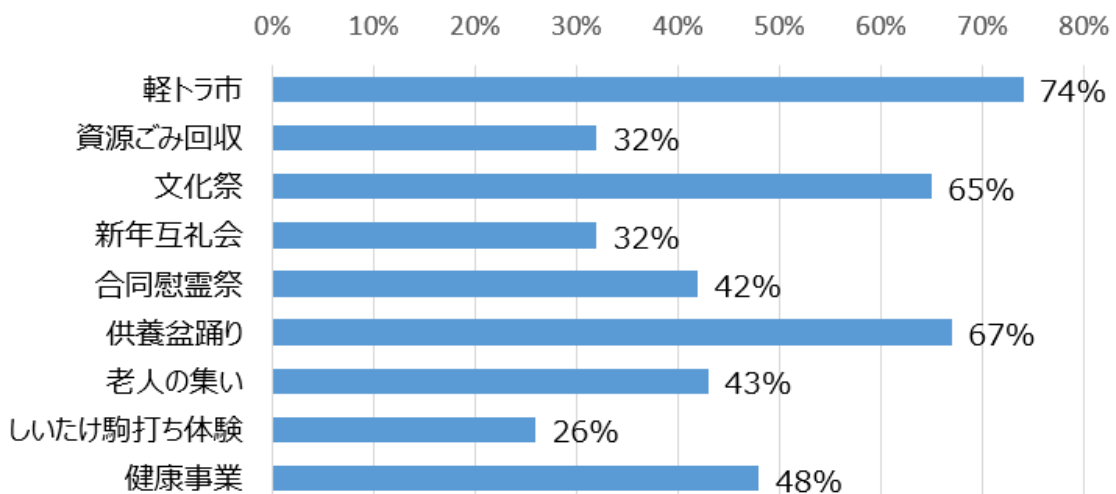
懸念される点

- ・評価の高い活動は、どちらかというと、年配の方をターゲットとしており、若い世代には、何らかのアプローチが必要と思われる。
- ・若い世代向けの意向調査やヒアリングなどが必要ではないか。
- ・現状の活動はニーズが一定程度あり、大きく方針を変えづらいのではないかと。ただ、現状を維持するだけでも、人口減や高齢化で、自治協メンバー・役員等の負担は増していくと思われる。
- ・役員や担い手不足の解決策を描くのが、ますます難しくなるおそれ。

地域計画書見直しのポイント・考え方

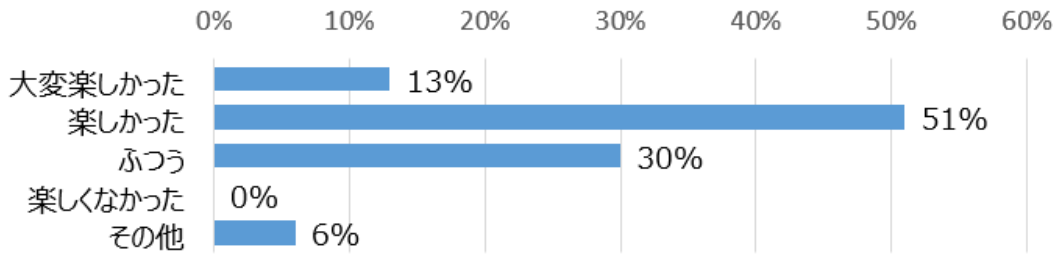
- ・現状や、これまでの活動の満足度は高く、大幅な見直しは期待されていない様子
- ・年配者向けの活動は引き続きニーズがあり、無理のない計画・運営体制が望ましい
- ・若い世代間の交流や、長期的な引継ぎについて、少しずつ配慮が必要ではないか
- ・女性の参加や意見表出について、何らかの配慮が必要ではないか

Q1：参加したことのある協議会活動・イベント等

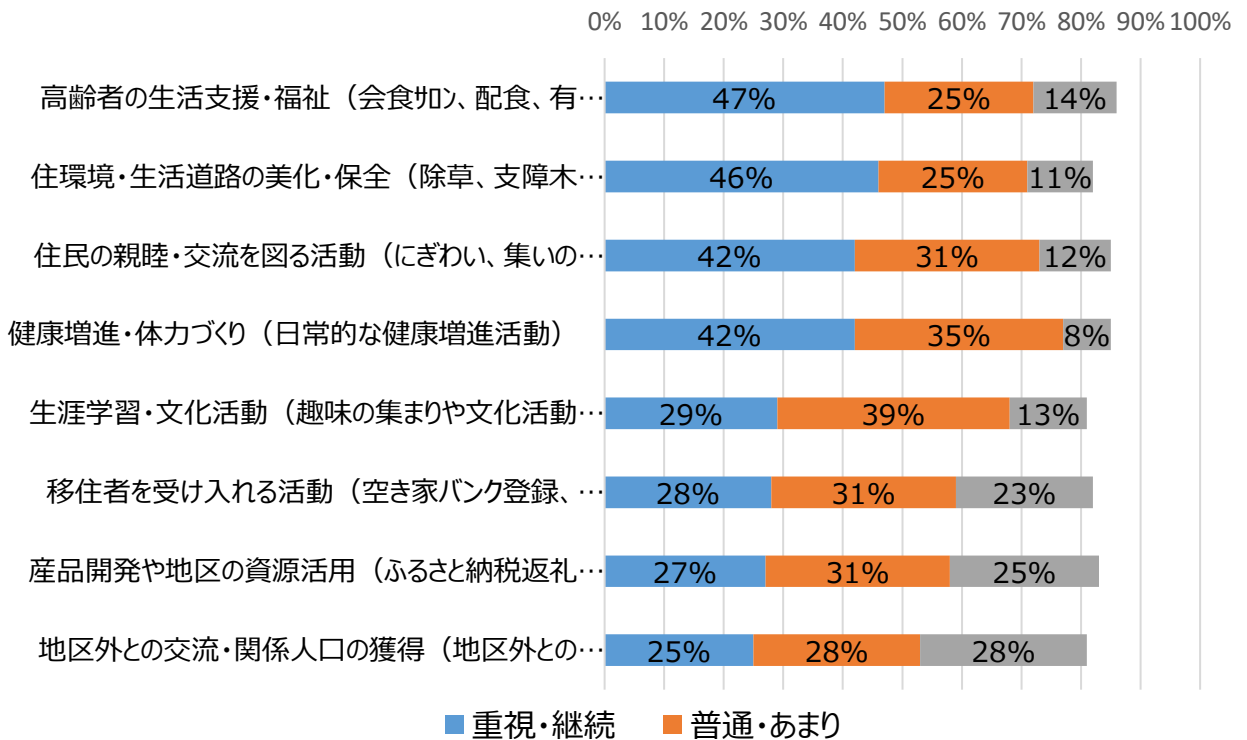


3. 向野地区住民アンケートの結果と傾向②

Q2：協議会の活動・イベント等の感想



Q3：協議会や構成する各種団体のこれからの活動について、期待することを伺います

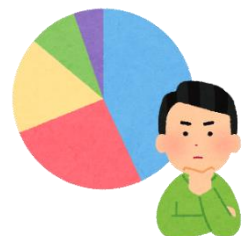


【記入の目安】

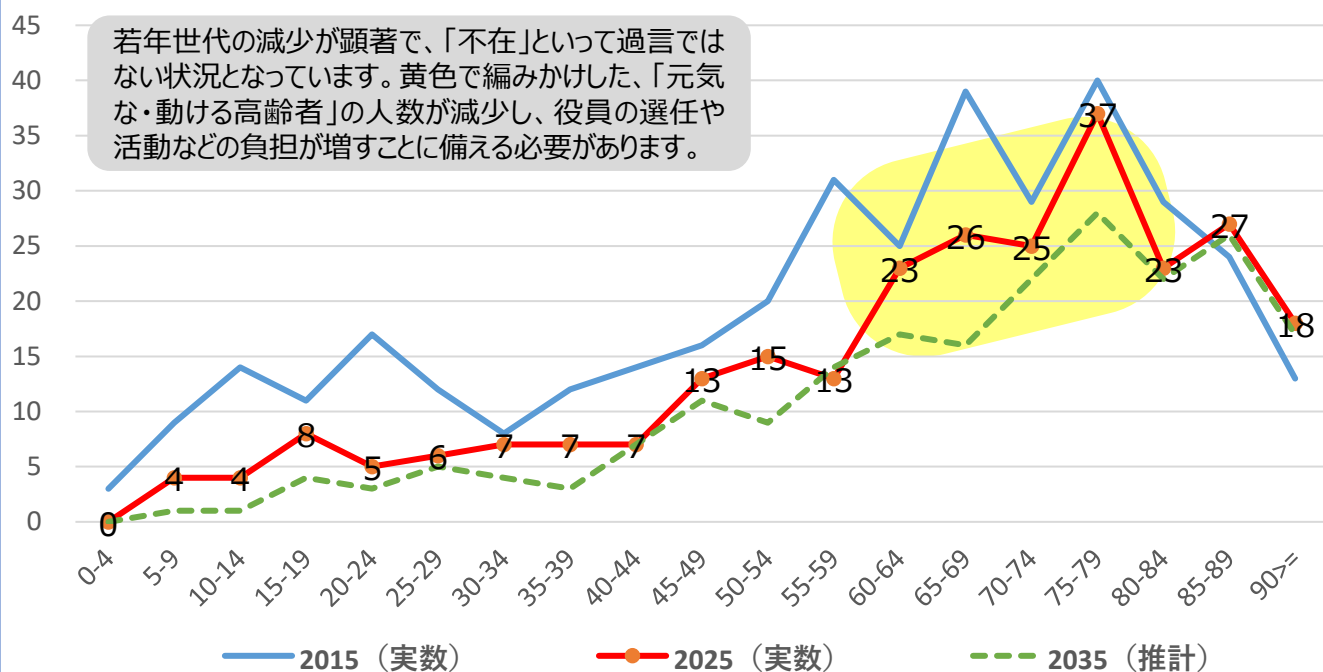
「重視・継続」……新たに組み込んでほしい、今後も継続してほしい

「普通・あまり」……優先度は低いと思う

「わからない」……その活動がわからない、必要とは思わない



4. 向野地区の人口の推移（前回計画検討時2015年と今後）



5. 地域計画書 見直しのポイント

- ・ 自治協へのニーズは大きな変化がない
- ・ 役員の負担がさらに増える懸念
- ・ 役員などを引き受けられる人の減少



**現状維持
+
次の世代**

アンケート結果からは、現在取り組んでいる活動について今後もニーズが高いと認識しています。現状の活動についても、地域の皆さんの参加度や満足度は一定程度、評価をいただいている状況で、大きな変化・変更よりは、現在の活動を充実させていくことが必要だと考えます。

一方で、役員の皆さんのヒアリングからは「活動の限界」を指摘する意見が出ています。自身の加齢などで、昔と同じように活動することも難しくなったという意見もありました。一方で、人口の減少で、引き受けもらえる人を探すのがたいへんになっています。**「現状維持」を続けて行くことが、とても難しい時期にさしかかっている**ことを、改めて地区の皆さんにもご認識いただきたいと思います。

また、人口構成から、どうしても年配の方向けの活動になっていることも事実です。人数は少ないながらも、「次の世代」に引き継ぐことを検討すべきとの意見もありました。ただ、次の世代に該当する方々からは、「今より少ない人数で、これまでの活動を引き継ぐのは困難」といった意見も聞かれます。今後、どのようにこの地区の運営を、次の世代に引き継いでいくべきなのか、すぐに明確な方針や解決策は打ち出せません。そこで、向野地区住民自治協議会では、この計画期間内に、**「現状維持と次の世代」をテーマとして、協議を続けたり、試験的な取組を実施したり**しながら、活動内容や組織の運営の仕方、編成などの適宜見直しに取り組んで行くこととします。

6-1. 部会の取組（ふりかえり・方針）



地域づくり部会

1. 生活環境の保持と改善向上に関する事。
2. 地域の振興啓発に関する事。
3. 防災・防火・防犯に関する事。

認知度の高い事業は、今後も積極的に取り組み、継続していく方針。活動が限られたメンバーで担われているため、

方針	事業メニュー	補足等
拡大	・ 資源ごみ回収	・ 自主財源確保
積極検討	・ 広報活動 ・ 物品販売・特産品開発	・ 地区として何ができるか、何が期待されているのかを再度議論しながら実施内容の詳細を決める
継続	・ 軽トラ市	・ 参加率も高く、引き続き継続
協議継続	・ 防災活動 ・ 防災拠点整備（消防団詰所）	・ 防災士会や消防団等との議論が必要
疑問あり 協議継続	・ 新年互礼会	・ 参加する人の固定化や、住民にとっての必要性など今後の方針議論が必要
実施困難 ・ 中断	・ 地区文化祭 ・ 移住者対策 ・ 行政受託事務（向野コミセン）	・ 行政受託事務は、市側の方針変更もあり検討困難



福祉部会

1. 地区住民の健康・福祉の充実
2. 青少年健全育成
3. 地区住民の交流・親睦を図る活動

認知度の高い事業は、今後も積極的に取り組み、継続していく方針。活動が限られたメンバーで担われているため、

方針	事業メニュー	補足等
継続	・ 自治協と老人の集い ・ 合同慰霊祭（戦没者・初盆） ・ 健康体操 ・ 麻雀	・ 引き続き継続 ・ 参加者が固定化してきており、今後の参加者拡大も課題
対策必要	・ 青少年健全育成（子ども）	・ そもそも「子ども」が少ない
実施困難 ・ 中断	・ 健康サロン ・ 会食サービス ・ 送迎サービス ・ 配食サービス	・ 役員を決めるだけで精一杯の状況 ・ 70歳を超えても働く人が以前より増えており、人員確保が難しい

6-2. 部会の取組（ふりかえり・方針）



文化教養部会

1. 地区住民の教養を高めるための生涯学習の実施
2. 地区住民の交流・親睦を図る活動

認知度の高い事業は、今後も積極的に取り組み、継続していく方針。活動が限られたメンバーで担われているため、

方針	事業メニュー	補足等
新規	- 炭焼き - 野菜の栽培教室	地区内の不要な樹木の活用等
拡大	- しいたけ駒打ち - 郷土資料館	引き続き、内容の充実を図っていく
対策必要	供養盆踊り（文化継承）	後継者の育成が喫緊の課題。部会単独ではなく、地区全体で議論が必要
実施困難 ・中断	生涯学習教室	



体育部会

1. 生涯スポーツ・教室の実施
2. 地区住民の交流・親睦を図る活動

認知度の高い事業は、今後も積極的に取り組み、継続していく方針。活動が限られたメンバーで担われているため、

方針	事業メニュー	補足等
拡大	- 体育館活用 - 生涯スポーツ（モルック）	大会参加なども視野に、プレーヤーを拡大していく
継続	- グラウンドゴルフ大会 - パークゴルフ大会	引き続き継続
対策必要	グラウンド草刈り	自治協役員や部会だけでなく、地区として人員確保をする必要（日当など）
実施困難 ・中断	地区運動会	モルック（軽スポーツ）に移行

7. 向野地区住民自治協議会 組織図



(各部会員の選出・構成団体等)

地域づくり部会員

各区より1名、以下より代表1名

- ・消防団 ・交通安全協会向野分会 ・向野地区防災士会 ・津波戸山の自然を守る会
- ・防犯パトロール隊 ・向野の農業を守る会

福祉部会員

各区より1名、以下より代表1名（民生児童委員は2名）

- ・民生児童委員 ・健康づくり推進員 ・シニアクラブ ・小中学校児童保護者 ・各種サロン

文化教養部会員

各区より1名、以下より代表1名

- ・民謡会 ・盆踊り保存会 ・太極拳愛好会

体育部会員

各区より1名、以下より代表1名

- ・グラウンドゴルフ愛好会 ・スポーツ協会 ・スポーツ推進員

これらの部会等とは別に、「次の世代」の巻き込みを図るため、**地区内外の若者で集う会議の場や事業を不定期で構想・実現**していきます。